F-16

# 河川の歴史･文化を活用した越谷市の景観まちづくりに関する研究
## ―越谷市史からみた河川･用排水路の歴史的変遷―
## A Study on Landscape Planning Using the History and Culture of River in Koshigaya
## About the history of river in Koshigaya

○馬上和祥[1]，横内憲久[2]，岡田智秀[3]，清水亜紀人[4]
Kazuyoshi Magami[1], Norihisa Yokouchi[2], Tomohide Okada[3] and Akito Shimizu[4]

Abstract: The purpose of this research is to clarify history about the river in Koshigaya. Therefore, the items mentioned about the river of the history book of the area were analyzed. This research has classified history into three. 1,Time of the development and exploitation by Tokugawa.　2, Time troubled by flood damage.　3, Time which autonomous activities activated.

**１．研究背景および目的**―埼玉県の南東部に位置し，千葉県と東京都にほど近い越谷市は，４つの一級河川とそれに付随する大小様々な溜池や用排水路など，豊富な水資源を有することから「水郷越谷」の愛称で親しまれた地域であった．しかし，都市化の急進に伴い，近年では水路の暗渠化がみられたり，安全管理上，河川敷へのアクセスが断たれるなど，地域住民と水辺との距離が少なからず遠ざかった事実も否めない．

一方，本市は 2009（平成 21）年 4 月 1 日に景観行政団体へと移行し，景観計画策定の機運が高まっている．その景観計画にあっては「水郷こしがや」の復権をめざし，市内の河川･用排水路等を活用した景観まちづくりの展開が望まれるところであるが，その具体的方策は明確になっていないのが現状である．

そこで本研究では，かつて「水郷」をうたった越谷市における今後の景観まちづくりのあり方を導くために，本稿では，本市を流れる河川とそれに付随する用排水路の歴史的変遷を明らかにすることより，本市の「水郷」としての特徴を捉えることを目的とする．

**２．調査方法**―市内の初期の開発が進められたのは徳川家康による関東支配以降の時代であったとされる．本研究では越谷市史[1][2]を用いて，江戸期から高度経済成長前の昭和中期までを対象とし，「河川」「用排水路」に関する記載を抽出し，越谷市の河川･用排水路の歴史的変遷を捉えていく．

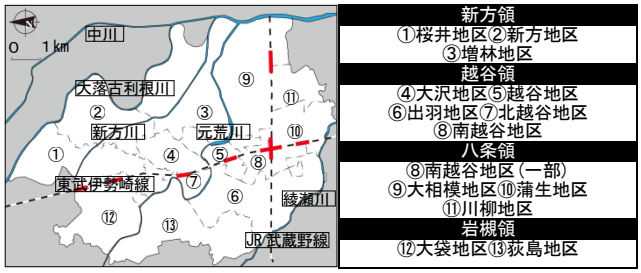


**Figure1.** Koshigaya city map and District area. (This is original Table my authors)

**３．結果および考察**―対象とした江戸期から昭和中期の河川･用排水路の歴史的事象をまとめたものが Table 1 である．以降はこれをもとに考察を行う．

**（１）開発･開拓期**―徳川氏は 1590（天正８）年から 1733（享保 18）年までの約 140 年間にわたり，居城江戸を水害から守るため，そして河川流域の低湿地帯を農地として活用するため，利根川の東遷や荒川の西遷を主に，用水の効率利用のための水路や溜井の造成を積極的に展開した．それにより流域の新田開発が急速に発展するだけでなく，江戸との物資運搬として舟運が発達し，水郷越谷としての発展をはじめた．

**（２）水害混迷期**―上記の河川改修によって治水･農耕上の安定は保たれるも，1742（寛保２）年や 1757（宝暦７）年の関東大水害にはその改修地点の堤防が決壊するなど，度重なる洪水被害に悩まされる時期が約 120 年にもわたった．そうした中でも，陸路の宿場町を困窮に追い込むほど舟運は盛んになるなど，河川の利便性と危険性の両面をともなった混迷の時期にあったといえる．

**（３）自治活動構築期**―上記のように混迷した時期の中で明治維新を迎え，河川に関する工費が民費負担となると，民費と労働力を集約すべく連合集会や水利土功会などが水系ごとに発足するなど，河川防災･整備に関する住民の自治活動が盛んとなった．特に，昭和 22 年のカスリーン台風による大災害の際には，国の対応の遅れを待つことなく水防組合を設立し対策に当たるなど，戦後政策によって部落組織が解体された中でも，水系による地縁的自治体制が確立されていたのである．

**４．まとめ**―以上のように，越谷市の河川･用排水路の歴史は，江戸期から昭和中期までの約 370 年間で，開発･開拓から水害の歴史を経て，住民自治活動に発展していったことを捉えた．なかでも，都市の骨格を形成

１：日大理工･院･不動産　２：日大理工･教員･建築　３：日大理工･教員･交通　４：日大理工･学部･交通

する河川とそれにまつわる舟運の賑わいや，水系による強い地縁は本市の「水郷」としての特徴といえよう．

## ５．参考文献


[１]越谷市役所：「越谷市史通史編(上)」，越谷市教育委員会，1975. 3. 25
[２]越谷市役所：「越谷市史通史編(下)」，越谷市教育委員会，1977. 5. 25

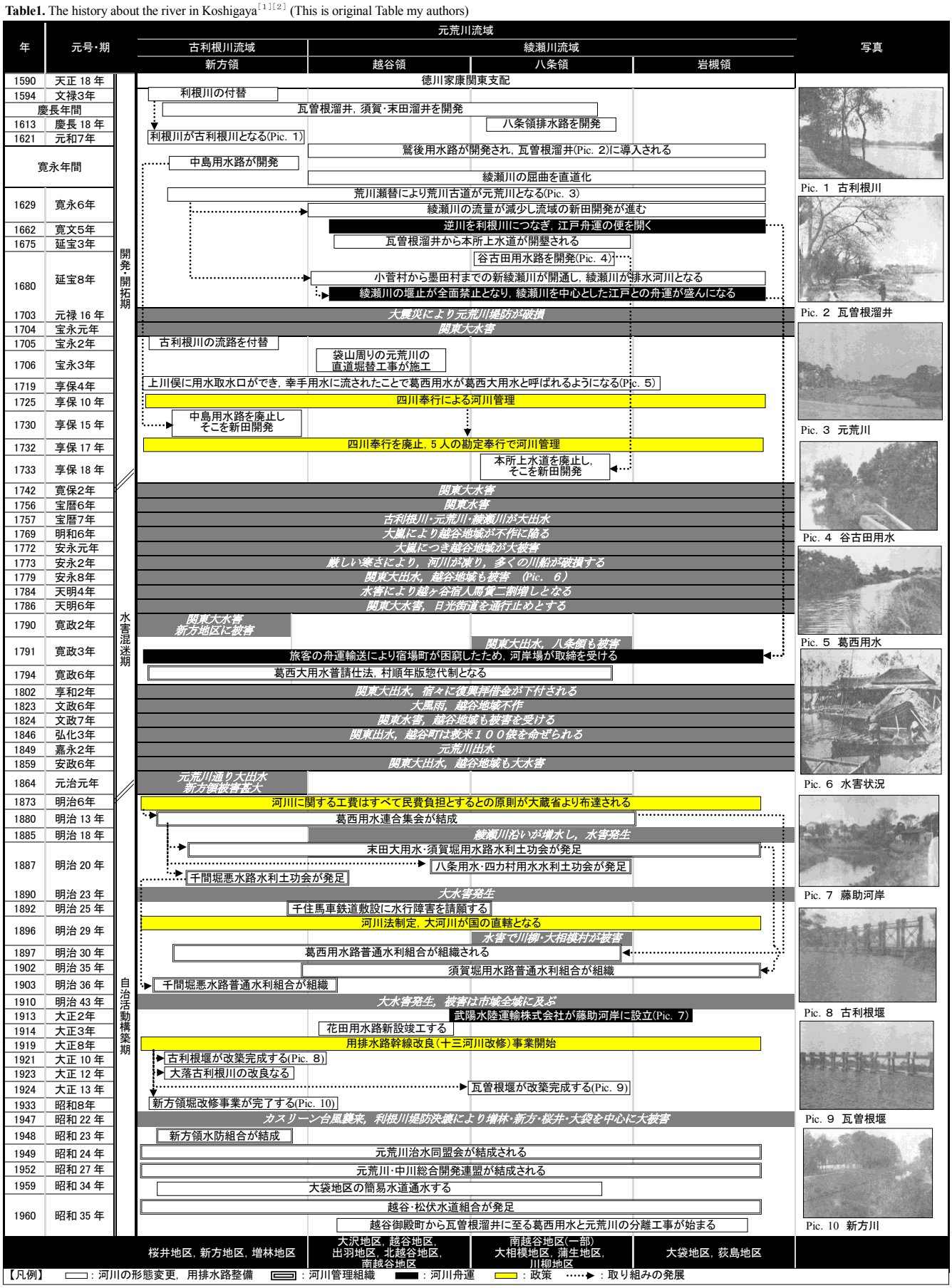
**Table1.** The history about the river in Koshigaya[1][2] (This is original Table my authors)